

BrightEyes 瞳を輝かせて

# 輝

より高く跳びたい

第58回国民体育大会少年男子棒高跳びに出場

野口力矢君(三好高校3年)



本ノ棒を使って、どれだけの高さをクリアできるかを競う競技、棒高跳び。今回は、10月25日から30日までの6日間、静岡県で開催された第58回国民体育大会「NEWわかふし国体」秋季大会に、棒高跳びの愛知県代表選手として出場した野口力矢君を紹介します。

国体に出場するのは初めてという野口君。5m以上を飛び優勝することが大会の目標でした。そして大会本番では4m80cmを跳び、5位入賞。「4m60cmを2回連続で失敗し、後がなくなってしまうが、今までの練習やアドバイスを思い出し、3回目はクリアできました。そして、みんなの応援のおかげもあって、何とか4m80cmまで記録を伸ばすことができました」と大会を振り返ります。

▶▶▶プロフィール  
のぐち・りきや 昭和60年生まれ18歳。名古屋市在住。県立三好高等学校3年。陸上部に所属。高校から本格的に棒高跳びを始める。国民体育大会は初出場。趣味は音楽鑑賞。

野口君が棒高跳びを始めたのは、中学3年生のとき。いくつかの陸上競技の中で、比較的手こたえがあったことがきっかけです。そして、三好高校に進学しましたが、当時、三好高校にはまだ棒高跳びの器具が全くない状況でした。野口君は「最初は八種の競技の合計得点を競う混成競技をやろうとしていたんです」と話します。その後、陸上部顧問の明星光信先生の尽力により、棒高跳びに必要な器具を何とかそろえることができ、再び棒高跳びができるようになりました。練習では、まず棒高跳びの基礎的なことから取り組み、さらに高く跳ぶために、助走の部分を陸上部で明星先生に、最も重要な踏み切りの部分を中京大学で専門のコーチに、さらに空中での動きを高校の体操部で指導を受けました。

今では県内でトップクラスの実力を持つ野口君。明星先生は「全体的なレベルを上げるように練習を分担して、地道に努力してきた結果ですね」と話します。そんな野口君も昨年度までの大会では、大事な場面でなかなか実力を出し切れずにいましたが「これだけ練習して負けるはずがない」というほど冬季練習をみっちりこなし、今年の県大会を1位、東海大会を3位で突破、全国大会への出場を決めました。しかし全国大会では、14位という成績に終わり、悔いの残る大会に。そして国体への出場が決まったら「インターハイの忘れ物を取りに行く」と合言葉に、さらに練習を重ね国体に臨みました。

国体も終わり、次の目標に向かって「来年の2月にある全国大会では5mを跳びたいです」と瞳を輝かせる野口君。

これからも目標に向かって頑張っていってほしいね。

## みつめたみよしのはつらつさん

笑いのある生活が大切

柘植 麻子さん(西一色)

「もうずいぶん前から、病気にかかって病院に行った覚えがないですねえ」と話す柘植麻子さん。食事は野菜や煮物を中心に食べるようにし、健康のために境川の堤防を40分から1時間くらいかけてウォーキングをしています。「家から堤防を歩いて帰ってくるのって8千歩くらいかな。1万歩はなかなか歩けないですね」とにっこり。

以前、ゴルフ場で25年間キャディーをしていたという柘植さん。その経験を生かし、グラウンドゴルフでは、三好町中部地区大会の女子の部で準優勝したこともあります。「多いときは1日に3ラウンド回ったこともあります。今思えば足腰はそこで鍛えられましたね。またバターの経験がグラウンドゴルフのときにとても役に立っています」と話します。

「旅行やカラオケをして、友達をたくさん作って、笑いのあふる生活することが健康の秘けつ」と話す柘植さん。いつまでも、元気で楽しく過ごしていってほしいね。



▶▶▶プロフィール

つげ・あさこ 大正14年生まれ78歳。趣味はカラオケ、グラウンドゴルフ、料理。旅行をすることも楽しむの一つ。ポケ対策のため、袋を縫ったり、広告を使っごみ入れを作ったりしている。

## がんばれ! みよしっ子

北中学校 男子剣道部

北中学校の男子剣道部を紹介します。顧問の山内博記先生とキャプテンの大津良太君に話を伺いました。



素振りなどの基礎練習を大切に、部員全員で声を出し合って練習に励む剣道部。10月に行われた新人戦では、団体の部で優勝、個人の部でもベスト8に7人入るという好成績を収めました。「新人戦では、とても良い成績を残すことができ、来年に向けて部の雰囲気もいい感じになってきています」と大津君は話します。

山内先生は「まじめな子が多く、こつこつと練習を積んでいます。試合のときには、たとえ技や技術で相手に負けていても、気持ちでは負けないように頑張っしてほしいですね。また部活動を通して学んだ礼儀作法などを、社会に出てからも生かしてくれれば」と指導に対する思いを話します。

部員の手本になるように、率先して声を出し、練習に励む大津君は「来年の西三河大会で予選を突破して、決勝トーナメントに進むことが目標です。それぞれの短所を補い、部員全員で練習に取り組んでいきたいと思っています」と力強く意気込みを話していました。

